金城勝覽圖誌

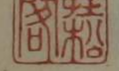
乾

ル 4
285
1

16.4

明治甲午秋日

心泉近衛題署



門ル 宮4
號 285
卷 1

收攬

奇秀

甲午四月

青峰題首

使

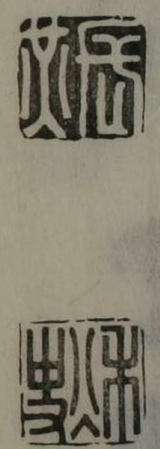
讀書

應接

不暇

甲午反古題

三州長芳



我住里わらのうち四月ばかりまち侍るこのたびかとばかりありと言ふこと許も
答へけれども書くふ書よりそしてはいつてもものすへきまれいめやすくさもれ
きるものはあるまじけるとよ
きやく雪湖　松月の名ちさく
あひたりて金澤の様を世ゑしく
おもせし見たちの記よりあるあ

さる野をうちぬけて白山のきこの
谷より河内に乱れ流れ来るの沖まで
洩れあつまりより梶のもとのつも
らるる松の葉のこやふうつ
ろをそへくそへくこの国よりうめく
ものきこえうれしきやかん
はかのやうにうこうもたやす
かるくうとうとうと人々のう

たつさくなる石ばしをうまんとて
高らかにやまけんやうのうちもあ
るまくふるまやうえんそのふのく
ひつるえくこのかそそるる
つまるなるていとおもうめう
まやまきかるよしてそあそ
るまるまりあきらふをを海
るそそよ二年家年あるうしそせ

とふかきこの三月の初の日

高橋富元

しるす

例言

一此書我が金澤市及び近傍勝地の概畧を録し以て遊客の覧に便せんとす故に行文の如きは雅藻を務めずして簡要を主とせり圖を插みて其盡さゞるを補ひ且看る人に倩ゆゝらしむ

一神社は鄕社以上佛閣は殊に有名のものを擧ぐ社寺に什寶名人の墳墓など枚擧に暇なければそのこゝ之を省けり

一白山は金澤を距ること遠しといへども富士に亞ぐる名山にして市中より望むべきを以て生徒概を誌

附録

一地所の區域ハ明治十五六年人口戸籍の類ハ廿五六年乃調査ニ據ることゝなれ今日ハあらてハ虞犯ハ減ニ少異あるものゝ如くなれ

一前人の紀文又ハ口碑ニ依りて之を録し沿革をまゝ〳〵ハ諸説紛々頗る折衷ニ苦む之のあるべ間誤謬あるハ免れがたし看客之を恕せよ

一勝地ニ関する先賢乃詩歌文章ハ多く輯むるハ京然帙を成せり文彩斐然兼て史事を考ふ

ぶるもの少からず別ニ金城階概歌詩文集の三編として後日世ニ問ふべ〳〵彼の地誌縗集體裁迥ふるるを知るべし又聲氣の交り標榜の習ハ庸什伯韻取りて卷帙ニ盈て廿餘境を畧るとも啻ニ徐凝の惡侍のみ代作ともいふべきを添削せ〳〵め其微意ニ應ぜ〳〵訪るゝ詠什即黄白編著即名利ともふべく自欺き人を欺くものゝ〳〵撰を異ニす棒行の日を俟ちて世言の虚ろ〳〵ざるを知るべし

雲湖漁翁識

金城勝覧圖誌

卷之上目録

一 金澤市
一 金城靈澤の池
一 犀川
一 辰巳用水
一 勸業博物館
一 尾山神社
一 安江神社
一 泉野神社
一 豊國神社
一 舊金澤城
一 金城靈澤碑
一 淺野川
一 成巽閣
一 公園
一 石浦神社
一 椿原神社
一 犀川神社
一 久保市乙劔神社

一尾崎神社
一金澤神社
一本願寺別院
一持明院の蓮
一五百羅漢像

一泉野菅原神社
一天德院
一東本願寺別院
一松月寺の櫻樹

金城勝覧圖誌卷之上

雪湖平岩 晉 著
松香中濱元重 畫

金澤市　金澤の名称ハ金城靈澤の碑ヨ詳るんバ此ヨ略す東ハ山地ヨ依りて河北郡四村卯辰。淡淺所。山上。鈴見。及び石川郡二村上野新。田井。ヨ界ー西ハ石川郡四村長田。南庚岡。中村。增泉。の野ヨ接ー南亦石川郡七村下笠舞。法島。十一屋。泉堅。地黄煎。有松。泉。ハ交り北ハ河北郡四村小坂。大衆免。浅野。中島。及び石川郡二村上安江。北庚岡。ヨ連る東西一里一町余南北一里十三町余面積二百七十八万坪余周囲凡四里余町數五百三十五字地八十五橋數大小百三十二

神社三十一縣社一。鄉社十。村社十二。無格社八。寺院二百六十二天台宗八。真言宗二十二。浄土宗二十四。臨濟宗九。曹洞宗四十六。真宗百三。日蓮宗四十九。時宗遊行派一。陸軍第六旅團営所あり第四高等中学校。尋常師範学校。尋常中学校。工業学校。高等小学校二。尋常小学校十二あり公園一。勧業博物館一。病院三。市場六。演戲場三あり戸數三万三百七戸士族一万七百三十九戸。平民一万九千五百六十八戸人口九万九千四百七十一人士族三万六千九百五十八人。平民六万二千五百十三人氣候ハ極暑九十二度六分華氏寒温器。八月九月の間極寒三十度十二月一月の間夏ハ夜半東風を来り清涼にして炎熱を驅る雨の多きハ五月下旬より七月中旬ふ至るゆゑなり雪ハ十一月中旬ふ降り始め明年二月中旬ふ至りて止む其多きハ凡六七尺少きハ一二尺あり尾張町元標

上

より金石港まで一里三十四町十八間五尺地勢ハ海面よりやゝ高くして凡三十八間余高低一ならず小坂数所ありて小立野最高く堀川高低一定差大約三十五間許犀川浅野川小立野を挾て西北ふ流れ支流街衢を縈回し漕運の便あるゝと雖市中の利用尠くして末流ハ田圃灌漑の利あるゝ多し北陸の本道市街の中央を貫き其他凡六條の支道ふ通じ全市毎戸井を鑿りて飲料ふ供す十の八九ハ水極めて清潔なり往時ハ煙大抵比〻又高門大屋多〻庭園の樹木繁茂せしと時勢ふ伴ひ藩士の邸宅漸〻或田圃となり大ふ舊觀を変ぜり南端ハ竹藪多く北端ハ蓮田連り筍蓮

根の産駿〳〵甘他果實薪炭魚介市ハ上りて餘あり陶
銅漆雕美術の器物ハ有名の産ゟ雑貨もまゝ産ひて
足れり

舊金澤城　面積九万千六百三十一坪余（内濠三万二千八百三十六坪）高十六
間金東北を大手口とし〳〵南西を搦手とし〳〵往昔小立野
を山崎山といつり曆應康永の比本願寺第三世覚如此
地ニ小刹を建て文明中蓮如本願寺第八世若松道場今の公園内山崎山の麓
地ニ小刹を移し〳〵更ニ巨刹を造り本願寺と号し長享
二年堡障を設け下間筑前守を〳〵て之を守らしめ
城山崎の尾ゟを以て尾山城と号し〳〵土民号信し遂ニ
之を御山と唱ふるに至り天正中織田信長佐久間盛政を

〳〵て御山城を攻陷さしめ八年之を盛政ニ與ふ盛政城
縄を改めまゝ尾山城と名づ〳〵十一年盛政賤嶽の役ニ
亡び豊臣秀吉之を舊藩祖高徳公前田利家ニ與ふ藩祖能登
七尾城ゟ遷りて又城縄を改められ文禄元年藩祖瑞龍
公藩侯第二世前田利長を〳〵て大ニ城塁を修築せしめ土地金澤莊と
称せしを以て金澤城と改称せらる明治二年封土奉還の
後陸軍省の管轄とゟ六年名護屋鎮臺の分営とゟれ
て昔時天正五年僧萬里上杉謙信ニ從ひ卯辰山ゟ此
城を望み君祈萬歳白山社臣守四方金澤城の句を賦
せり又慶長七年十一月晦日雷火の為ニ灰燼とゟり廿後
又三回寛永八年五月宝暦九年四月文化五年正月の燒失ニ罹り〳〵て再築舊ニ倍

金城靈澤池
鳳凰山

宏壯を極めたりしが惜いかな明治十四年一月營内より
失火して石川門乃外ハみな舊状を失へり

金城靈澤池　金澤神社境内に在り方一丈水清冽にして盛夏厳冬とも曾て涸減せず相傳ふ往昔石川郡山科村より一畸人あり爰五郎と称し（或ハ五郎松の誌に委し）一日山崎山に杖て多の砂金を得来り山泉に滌ぎ身ハ僅に蓄へ餘ハ盡散じて窮民に与ふ世人これ金澤名称の昉る所なりと社地ハ舊竹澤殿の園囿中にて藩主金龍公（茅十二世前田齊廣）荊棘を掃攘し水底を石甃とし雨覆を造らず又其上の小丘を鳳凰山と号ぶ其状鳳鳥に似たるをいふなり古の小丸山なりといふなり

金城靈澤碑　池側鳳凰山下の巖窟にあり高五尺六寸横三尺五寸厚一尺称ぶ川石を以て造る天保十五年舊藩主温敬公（第十三世前田齊泰）池水を金城靈澤と命け此碑を樹て津田鳳卿に乞て文を撰し渡邉栗を乞て銘し布河三次に乞て書せしめらる其題額金城靈澤乃隷書ハ公の筆なり（碑面ハ江戸谷中の良工田中文学の刻まる所なり）

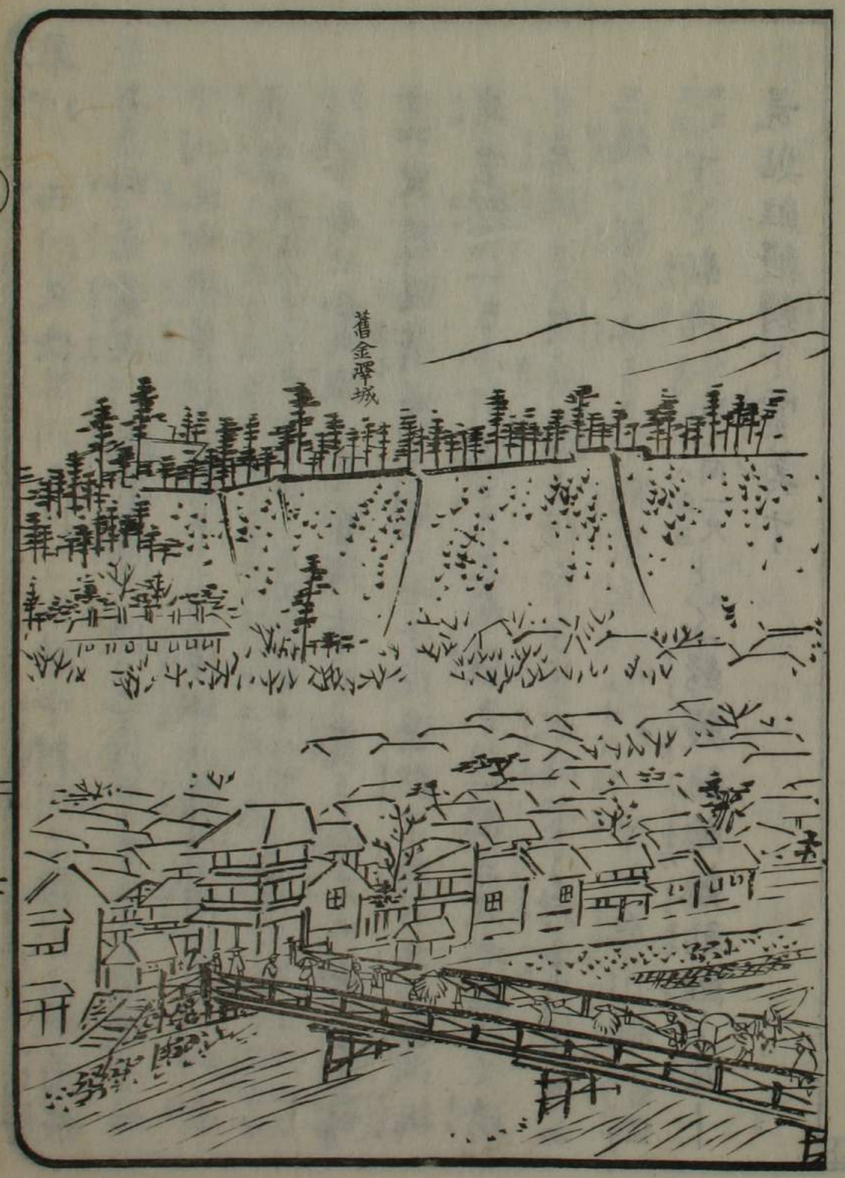
金城靈澤碑銘并叙

北陸之鎮曰白山雪封其巔而四時不盡其峻逼霄稱爲本邦三嶽之一自古屬我藩管内其麓跨五州山脈蜿蜒向北而来至山崎莊而止環匝三面蒼海膺其前中有龍蟠虎踞之都元精欝浡鍾秀標瑞具百二之形勢實爲蜻洲之雄鎮先公比之金陵建業城乃其名所由也城南數百歩有泉寒泉清而且澹

昔有逸人稱曰藤五採鏷山淘汰斯水焉故稱金澤藤五爲人
寡欲好施不嗇蓋藤氏第五郎避京洛之紛華來棲遲於此衣
褐懷玉遁名晦迹不求人知故前史無足徵者天正中我藩祖
公自南越就封登州三遷移鎮尾山布維新之令革舊深之俗
招賢任能自西自東士感而應之民悅而歸之自成都邑逮文
禄元年恢拓都城民人益輻湊皆樂其生於是近取此水以名
都城於是乎金澤之名昉聞于天下迨前朝時因營菟裘池在
其苑囿中咫尺新殿爰感建都之古蹤仰祖公之創業託物存
思乃錫嘉號曰金城靈澤竊比隆於有周之沼今公承統理化
休明能纘先旨命臣三交大書其榜又命臣鳳卿叙述其事臣
栗繫之銘詞乃令勒石建之于池上加以公親筆題額於是勝
蹟不朽千古矣抑斯水也其肇知於一个遥民遂被明主之顧
發名於文禄錫號於文政樹碑於天保者以其密邇雄都而遭
遇右文之時也雖然涓涓一檻之水而被皇皇親奎之榮寵異

至此固不期而遇不求而致者豈非有數而存焉者乎且數百
年之前誰知有今日之事至數百年之後永依託雄都以與國
並傳又徵以斯文則誰不知人以池傳迹池亦因城託名壹是
皆賴明主之一舉而三善皆顯哉果然則勝蹟真是不朽無疑
臣材駑且老固不足以應盛旨敢陳愚衷以寓景仰之意
栗繫以銘曰

府城之南　檻泉洋溢　茲匯爲澤　克育萬物
滋潤膏沃　涵養無竭　盈科而進　成章以達
豈同溝澮　雨集皆盈　厥實深厚　粤得美名
君子所法　君道以亨　遺澤流渥　黎庶遂生
休哉君德　日昭日明
天保十五年歲次甲辰正陽月


舊金澤城

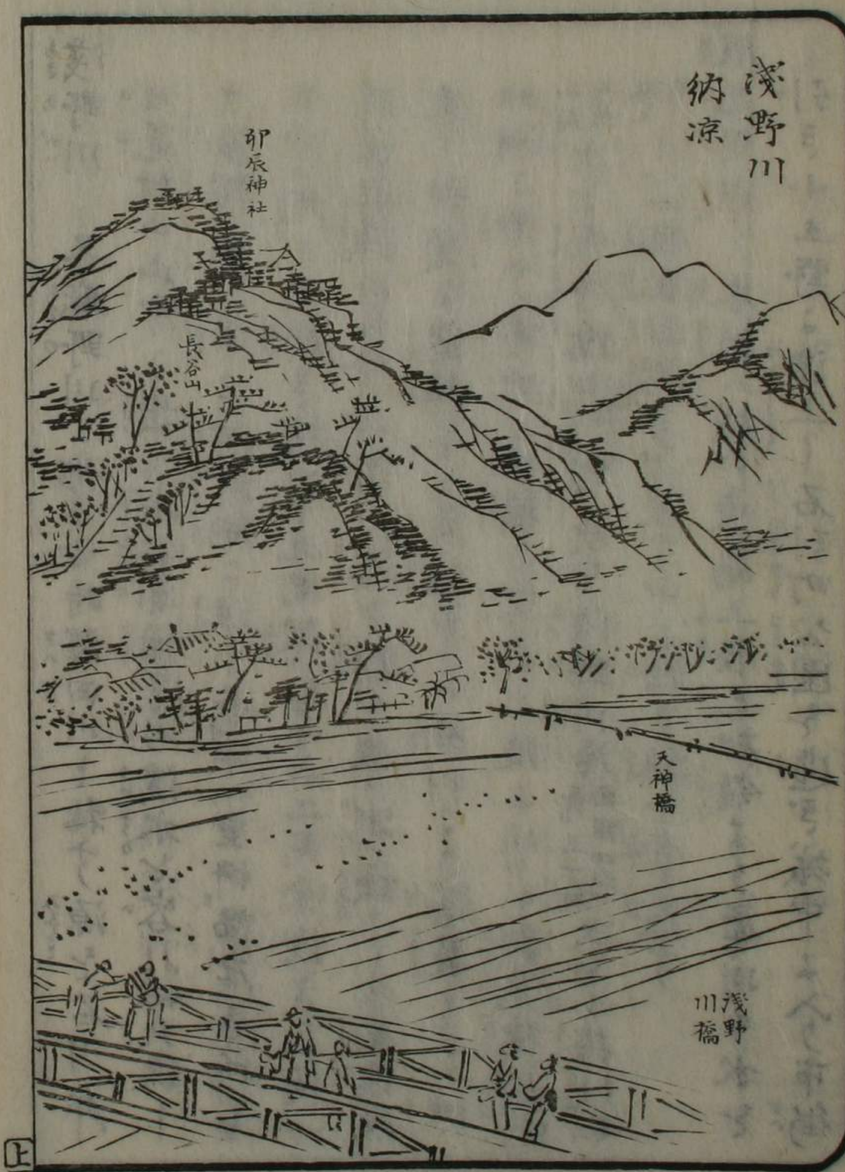
醫王山
戸室山
犀川雪景
犀川橋

屏川　西川又佐井川より低る古時中村川と称し上流菊嶽
あり野菊叢生し花露滴り流るを以て生ずを菊潭と称
し川亦古来景水の称あり水釀酒に適す源を石川郡奈
良嶽二又村の東南にあり高サ五百三十五丈三尺より發し内川後谷村
瀬波山千丈平山を合し周囲十四里十八町
り来るを合せ西北流して金澤市を貫き金石の海に入る長サ
十四里許幅員廣き所ハ七十間員狹き所ハ三十三間両
岸甚深サ一丈ふ尺深きハ三間淺きハ一間三尺水極めて清
く急流にして舟筏に便ならず水路常に轉変し市中に
三橋を架し上なるを鶴来橋長サ五十間幅二間一尺中を屏川橋長サ三十三間幅
三間五尺下を新橋長サ四十八間五分幅二間一尺といふ鯛鰻鱒を賞美す
員鮎鮭鰻鱒を賞美す

上

浅野川　又麻野川より作る古時澤田川と称す源を石川郡
日尾村の山中より發し折谷湯涌等の渓水を容れ西北流し
て金澤市を串き河北湖に注ぐ長サ十一里許幅廣き所ハ
三十一間三尺狹き所ハ十九間深サ深きハ二間余淺きハ一間一
尺余水清からず上流を急にして下流ハ緩にして舟筏往
来し能登より運輸する荷物多くハ堀川より艤裝して河
北湖より漕す市中に四橋を架し上流ふなりを鈴見橋長サ二十六間幅
二間二尺次を天神橋長サ二十八間幅二間次を淺野川橋長サ三十四間幅四間次を小橋長サ二十間
幅二間といふ鮴鮎鮭鱒を産す中に能き鮴を賞義す
辰巳用水　本流ハ城の東南上辰巳村領より屏川の水を
引き小立野より激上して石引町公園を過ぎ城中に入り市街

五本松


浅野川
納涼
卯辰神社
長谷山
天神橋
浅野川橋

より落ち終に各所の溝渠に注ぐ小立野の町端より公園に
至るまで長十五町許又亀坂より分流せるもの新坂町上
東多町を過ぎ鱗町に至り鞍月用水に合す長十六町二
十間余又鶴間町より分流せるもの木曾町八坂下を過ぎ東
外廓の潴濠に合す長十六町許寛永九年奮藩主微妙公
第三世前田利常 城中水に乏きを憂ひられ能美郡小松の人板屋
兵四郎といふもの筭術水利に長ずるを以て命じて土功を
興す彫多の人夫に日々四度の食を喫へられ急に功を竣
ふるものあらば其功事尤巧なり 当時城中飲料の水この水の流るるを以て美し之を人夫に与へ潴
患あらんことをおそれ厚く兵四郎を慰労して云ふ所に之を報し後生子に
禄やらる河北郡袋村に袋神の祠あり是功事の時兵四郎の徒を以て袋村
の人夫を使用し多く死後村民追思して之を祀るものあり 又正保三年浪士田中覚兵衛の言を

容れ寺津村石嶋より水を上げ上土清水村の山腰を開鑿疏
通して辰巳用水に合せり

成巽閣 地所往古は山崎村に属し元和六年より藩臣の邸
地なりし元禄九年邸第を他に移せり寛政三年旧藩主太
梁公第十一世前田治脩 新井白蛾名祐登に命じて文武二校を此に建築
す之を明倫堂文学校 経武館武学校と号づく同四年三月開校
式を挙げ爾来藩士を此に養成す 学制及び勧学の事は号ハ事柔きを故に之を堂形の地に移す 文政五年再之を堂形の地に移す 今茅四方号中
文政二年金龍公校を側の地に移し
学校の地所是なり此地に蒐裘隊を経営せらるる之を竹澤殿と号し
造宏壮美麗を盡せり公逝去の後遂に殿を廃し文久三年
温敬公萱堂真龍夫人金龍公の室鷹司関白政熙公の女の為に再此地に営し

之を巽新殿と称し維新の際まゝ之を廢し僅に三百六十
余坪を餘せり後あれを石川縣勸業博物館ゝ屋し成巽
閣と改称す欄間の彫刻襖張附用材金具等総て凡あら
ず又茶室あり景清澤たり待合四畳座敷此ゝ巽新殿地
乃匾額を掲ぐ温敎公の自筆なり室の前栽ハ殊ゝ意匠八畳腰手四畳
を凝め布置の木石皆奇品ゝ好雅の眼を驚かに
六地藏手水鉢元地蔵坂ゝ六地蔵燈篭元夕顔亭の赤黒檀
樹ハ亦有名なり能舞臺ハ明治九年温敎公来縣の時公
の為に設けしものなり

巽新殿記

今茲文久三年癸亥爲萱堂營新殿于本城東南辰巳方位

與城相連此稱巽殿蓋有由也往昔金龍大府君占菟裘于
此地而營宮殿樓閣焉稱竹澤殿前外門長屋稱之辰巳長
屋今其殿閣既廢而外門與長屋猶存焉今皆取用於此殿
萱堂嘗在於鷹司家日其宮稱辰巳殿與今所營暗合是一
奇事也憚畏其同文字同稱以巽代辰巳而同其訓城中入
一水其源經辰巳村而灌此園謂之辰巳用水也夫水之爲
德乎古人有謂其源嚴而流末無窮即子子孫孫永續之兆
也其爲用乎活流運動混混不舍晝夜宜哉智者樂之也其
混混無窮合子孫萬世無窮之意也又且案巽卦在時令則
陽春發生又風月花園草木茂秀之兆於人倫則長女秀士
眷愛或鳳出逢鸞貴人相近之兆今取是禎祥之兆不亦佳
乎且凡百什器爲印記用巽字比辰巳字簡而雅馴也嗚呼
此樓閣之壯觀近則弄無六園中風月花木之集清遠則占

山海烟雲去來之悠渺一眸千里不盡之眺望是萱堂養志之蒐裘而國家萬世無窮之勝地也云爾

文久癸亥仲秋　梅皐齊泰

六地藏燈籠

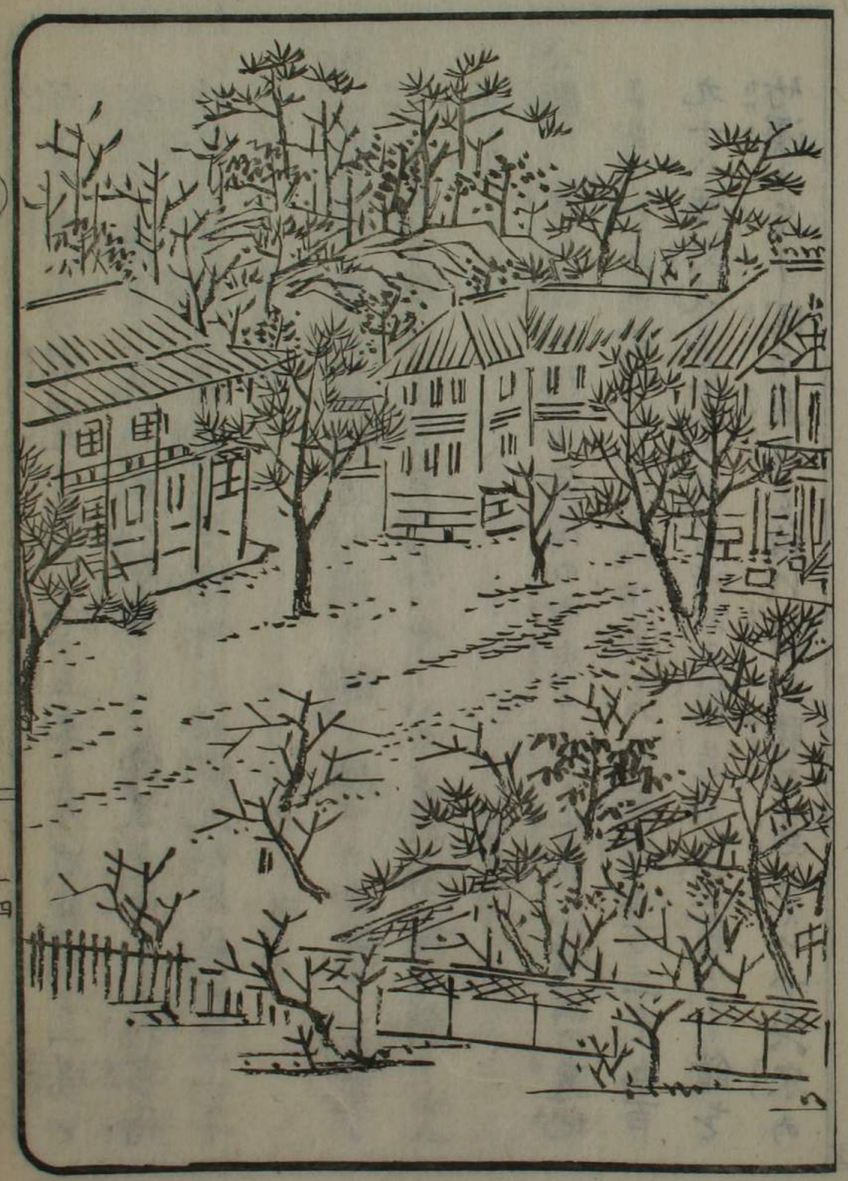
高サ五尺五寸御新石にて古色あり

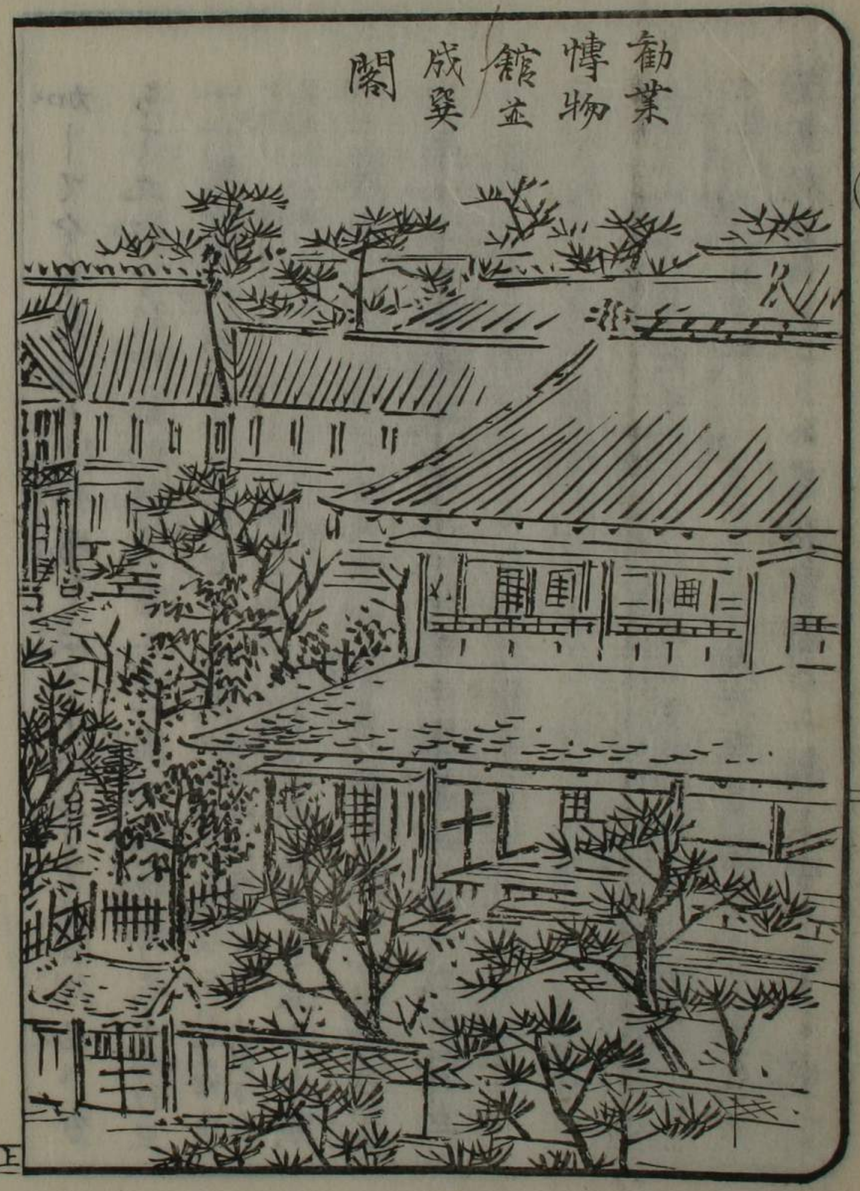
六地藏手水鉢

高サ一尺八寸周囲五尺形チ六面ヨ彫り皆地蔵像を彫十御影石にて古色ありて豊公より藩祖へ献られ一ふとゝ

勸業博物館　公園の東南隅より新館百八十坪明治二十六年新築
す縣令淺井堂を兼ぬ　東本館百三十八坪旧藩主獨逸人濱山学士「デツケンヒ」の為より建築せられ明治八年之を博物館に充す　西本館凡百九十一坪元育英学校の建物にして明治十一年博物館に充す
飯ふ集産館凡百九十一坪二館合つ　成巽閣凡三百六十七坪余前に詳以上六館
百三十八坪余
甚他附屬の建坪を合せて凡千二百八十坪許是を総称して石川縣勸業博物館と云ふ明治七年始めて館を開き開設の主意は実業者に巧智開進の裨益を與へ縣下殖産の途を擴張せんが為に物産を蒐集し以て維持の法は前田家両本願寺其他縣下有志者の醵金に立て十三年縣立となり地方税の補助を得て益規模を大にし義術氏他の見本品を購求し且人民より寄附せる所の物品年々増

加して今や数万の陳列場を設くるに至り陳列品は今
ちて九部に分ち曰動物部六百二十一點曰植物部三千四百三
十七點曰礦物部二千五百七十三點内外国産二千余点は旧藩主外国破山学士に命じ数万金を投じて聚められしものにして金石各種の見本殆ど漏れなく珠玉貴重の票本なり曰農産部五千百五十六點
曰工藝部八千八百九十九點曰教育部百三十二點曰古器
部百七十點曰機械部三十四點曰圖書部二万六千百五
十六點を備ふ又明治十二年十月圖書室を成巽閣に開く
前田家より石川縣廳に貽る所の花書旧藩主第四世松雲公博学にして天下の珍書数万卷を蒐集して四庫に充つ当時は内加州は天下の書府なりと称せらるの書籍中より分ちて数万卷を石川縣に貽る　を主として縣内有志者をして所蔵乃
圖書類を出品せしめ書籍畫圖の二部に分ち常に室を




勸業博物館並成巽閣

開きて衆庶の求覧に便じ又十五年より成業閣に一場を設けて講堂と称し衆人相會して務業に関する利害得失暨び学術を講究する場所とし創立以来茲に二十一年其間大小臨時會を開きしこと十六回中に就き聖駕北巡に際し臨時會を開き遍く縣下の物産を天覧に供し奉り親しく之を見せしめ本館の栄と云ふべし

公園　兼六園と称す金澤の中央に位し古の山崎山の遺地にあり東西四町四十間南北四町十八間面積二万三千五百九十八坪文政元年金龍公此地に築造して苑囿とし館を竹澤と号し園を兼六と称し蓋六勝を兼ねるといふも宋の

上

李格非洛陽名園記に取りて白川侯樂翁（松平定信の号）づくる所にて園頗兼六園の三大字も即侯の筆なり金龍公逝去乃後廢園たりしが文久三年温敬公再修築せられ明治四年恭敏公（前田慶寧第十四世）東京に移らるゝ後官地となり公園となる小園中池沼瀑布あり松杉菊瞀花木妍叢泉石亭榭みな精致を極む高眺望に宜しく殿宇名の義に称へり字園内の路に沿ひて平下に園中景物の尤なるものを列挙す

園の登路　園の登路六條なり百間堀（園と城との間の通路）の中間にあるを表坂民位にあるを清水坂次にあるを椿坂とふ廣坂通より乾に方りて地蔵坂とふひ金澤神社境内

より登るを社坂といひ尻垂坂より登るを東坂といふ

曲水　辰巳用水園内を繞回す之を曲水と号く山崎山の山足より霊ヶ池に注ぐ間を本流とし長二百九十間震ヶ池乃北塘より蓮池に注ぐ分流百二十五間西塘より注ぎて松蔭流に入る分流五十五間巾本流幅廣き所三間余狹き所二間分流六尺或三尺あり園内に跨る橋梁大小三十三ヵ所

山崎山　又紅葉山ともいふ園の東部にあり高サ凡五間周囲三町許全山楓樹繁茂し秋葉錦繡を織出して佳観あり山の半腹に五重塔あり栗ヶ崎の南禽時某の御室塔といふ高サ一丈五尺白川市新石を以て造る京都御室御所にあるものを

扁額

成巽閣

梅皐幸七十一
□□

成巽閣ハ
掲ク縦二
尺横五尺
八寸三分
文字形下
箔置き地
板桴縁木
黒塗り

文政年東校
樂翁書□□

博物館内
ハ掲ク縦
三尺五寸
横九尺文
字形下糊
彩ゝて理
む地板桴
珠木理縁
木黒塗り

縮摹

摸せりとふ山麓より彩宮の趾あり嘗て寒中雪を蓄へ盛夏に至りて之を開き鑿ち生て侍臣に分ちたりとう

鶴鴿嶋　山崎山の山足平坦の地にあり面積十五坪曲水周囲を繞りて小洲をなす遠祖杜麦鮮作公姑て隠陽石竹の墓表を建て三社と書き額を掲ぐ又五重の石塔あり高さ一丈二尺余地閑雅にして自一区の小園をなす

末森松　三株の松東坂の上に並列す嘗て温敬公藩祖の偉勲を欽慕し紀年羽咋郡末森城墟より移し栽ゑたるものなり天正十二年九月九日佐々成政兵一万五千を率ゐ越中より来り不来末森城と攻む守将奥村永福防戦宮勉む已まして急を尾山に告ぐ藩祖急に赴援して之を破る成政奔北し我兵尾を斬ること七百五十級隊長十二人を獲たり

明治紀念碑　東坂の上にあり面積凡五十坪標基高サ二

丈四尺五寸舊金澤城内鼠田園の石を用ひて累堆し中央の碣石に明治紀念之標の六大隷字を刻す有栖川熾仁親王の筆なり其上に日本武尊の銅像を置く像の高サ一丈八尺三寸標の周囲二十八間石柵を繞らし明治十年西南の役に戦死せし第七師管軍人の忠魂を祭り甚功績を紀せしものなり十三年金澤営所陸軍士官縣官士民有志恨同設立せし所なりとう

聖上特に金若干を賜へり同年十月竣功し廿六日より三十日まで盛祭を行ふ両大谷教正縣下の神職各宗の僧尼會会し文祭典の式を挙ぐ爾来毎歳六月を期し三日間の祭式あり参詣群聚し園を埋む又柵の左に碑あり

明治紀念標
並
石川縣戰士
盡忠碑

高四尺四寸幅一尺三寸四分大谷教正光尊自筆の和歌（
西西方弥陀ぶつ　いま我ハ万世のちをたのみけるかな　ぶつ
を刻る又柵の右ハ高四尺五寸三分の碑あり上段ハ大谷教
正光勝の和歌（國のため武士乃なをきをもとふ
世ゝ乃ゝ名乃ゝ）下段ハ権大教正光瑩の詩（史編歴々美
名芳。想見當年血戰場。義氣凛然凝不散紀功標畔月如霜）
を刻る　ゝ碑自筆なり此外碑石多くあるも略す
石川縣戰士盡忠碑　明治紀念標の柵内ハあり碑石圓形
ゆゑて周囲六間一尺三寸巻石長五尺四寸幅二尺三寸厚一尺
四寸明治十年西南の役ハ戰死せゝ石川縣士の為に建るもの
なり十一年縣士訂結の崇忠會ゝて之を計画ゝ尾山神社の

境内ハ樹つ官特ハ祭資料金二拾五圓を賜ひ前田家亦金
貳百圓を寄附せらる十三年紀念標を建る際此ハ移す
碑文ハ温敦公の撰ゝて書も亦公の筆なり

石川縣戰士盡忠碑

人誰無一死死而得其所死亦榮矣明治十年二月鹿兒島賊
軍起王師征討以平定之其戰始於二月廿二日肥後川尻川
上而終於九月廿四日薩州城山經月八閲月大小百餘戰艱
苦亦可想兵石川縣下士從王師者無慮數千人奮戰于肥薩
隅日豊之間其致身者三百九十餘名是皆知有國而不知有
身者其忠節可嘉尚也有志之士憫其死節相共謀建盡忠碑
於尾山神社内以祭之使余記之姓名則詳于碑陰

明治十一年九月　　正三位前田齊泰撰并書

根上松　紀念標の前にあり高六間余地上数條の根を露
す其高七尺余直幹亭々清蔭聳々たり温敦公手栽乃
樹なり

樟樹　根上り松の北より方りて雪見橋の南側にあり高七
間余周一丈一尺金沈公の栽らるゝものなり

雁行橋　七福神山の麓を通ずる曲水に架せる亀甲様の
華綱石十一個を以て雁行の如くに連ねたり異状にして
殊に珍なるその上流に跨ぐを雪見橋といふ長一丈六尺
幅七尺五寸厚九寸五分あり巨石二個を以て横たへ
せりこの下流に雪見燈籠樹つ高水を接くこと六尺笠
八六角形にして周一丈三尺御新石を以て造れり

七福神山　又灘蹋丘といふ稍〻雪見橋の上なる小丘をいふ
丘上孤松亭然として青蓋を開くこと傘の如し名づく松
下一帯躑躅繁生す高の石七個を周囲に起伏す石質堅硬
天然にして形各異なるを以て七福神石と唱ふ
又晋の七賢に擬せるものなり此邊倚仰閑敞にして東は醫
王山より峰巒隈隩山に連亘し北は河北湖の碧鏡遥ふ
望み浮び寶達山の翠螺達く雪に接し金城の市街遠
近郊墅を雲際に千里一眸に繁くもいとべく実に園中
望乃冠なり

七五三櫻　園内三株の老樹あり一は雁行橋の北傍にあり
旭櫻と称す高九間許根元七大幹に分れ太各六尺

七福神山

許一ハ乙葉松の西側ふあり塩竈櫻と称す高五間許枝
囲二丈四尺余五幹より分る名太四尺六寸許一ハ根上松の坤方
ふ行り吉野櫻と称ス大和吉野より移せりとふ高五間許三株相隔て
鼎足をなす内一株幹七五三の故を以て併せ称して七五
三櫻とふ此他園内ふ櫻樹千株あり各地の名木を移植
る一ハ虎の尾。然谷。緋櫻。淺黄櫻等あり花時雲
の如く雪の如く花好矣観を極む
落葉松　旭櫻の北より高十間許幹の圍六尺二寸
垂枝短葉色淡緑あり十二月下旬より盡落す一明
年三月下旬より全く發生ス樹より滴て雪見燈籠
を走る高七尺笠の圍一丈七尺五寸石質堅硬極り鮮

上

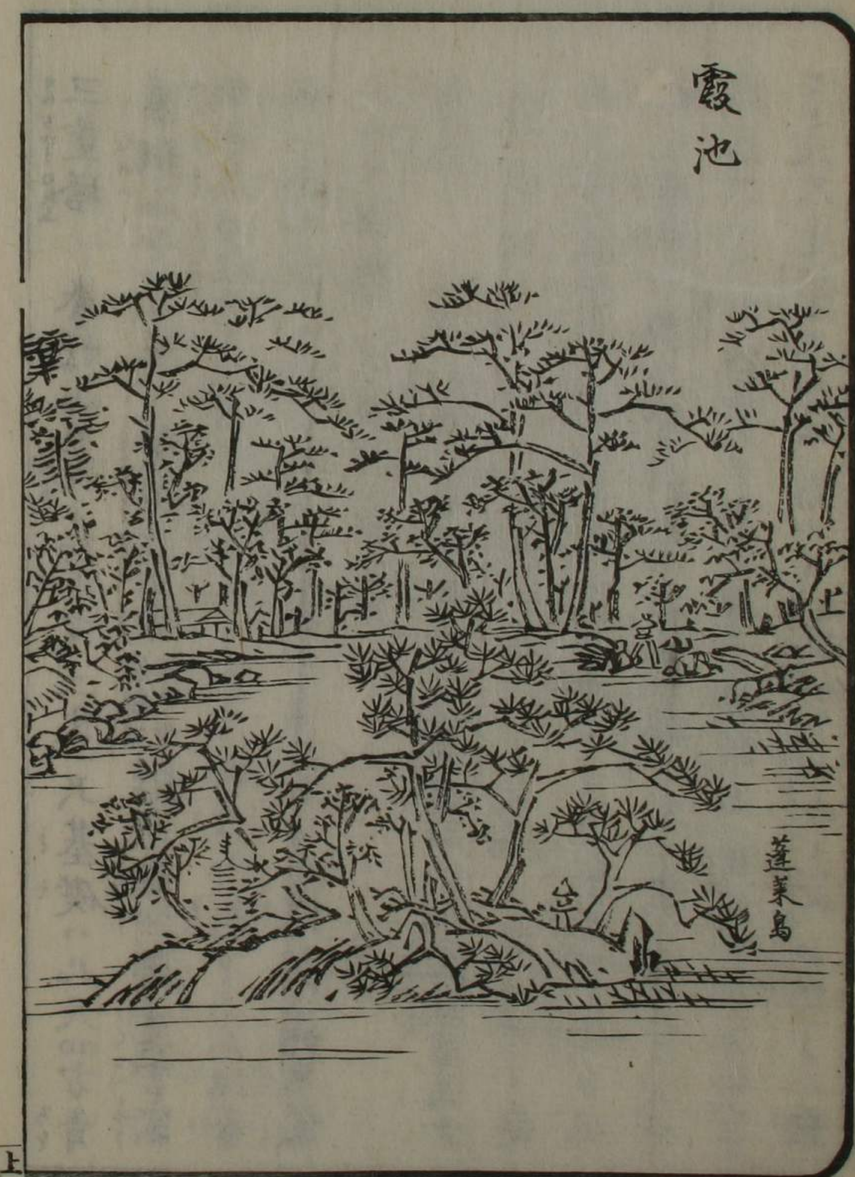
白あり江戸東叡邸より運び移し一ハ又此ふ架す
圮橋を月見橋と称ふ
乙葉松　又錨松とも称ス塩竈櫻の東より高三間許
枝より四幹ありて生状恰錨ふ似り蒼て温敬公の侍女
乙葉ふちの之を植ゑしものとふ
地藏堂　乙葉松の側ふあり高七尺五寸方一尺九寸の石
龕あり中ふ地藏尊の石像二軀を安置ス一ハ往昔前田
家江戸本郷邸内の土中より掘得て道祖神と為ス
しを淳敬公此園ふ徙さ行り像の背後ふ大同二年の銘
あり一ハ江戸骨原より行りしを貞琳院の方金沢公の生母茲ふ徙
さる初二堂あらび建しが一ハ慶して今一廛ふ合せり

翁塚　塩竈橋の西傍よりあり碑石高五尺芭蕉翁の句
（あら〳〵と日ハつまるふ〳〵も秋の風）を刻す書ハ俳人梅宮の筆
あり初印辰山よりあり〳〵近年故ありて此地に移せり又句
八芭蕉翁當國の俳人北枝と共に印辰山よりあそびて吟ぜし
秀句あり

拳螺山　一名觀月臺霧池の西塘よりあり高三間余周囲
五十間許登路羊腸旋回りて拳螺のめ〳〵楓杉囲繞して森々
あり山頂平坦にして盤石を畳み傘亭を樹て休憩に備ふ
樹間より市街の西部を平臨し遠に石川郡の山野を極
望すべし又此臺ハ霧池の土を以て築き江戸本組郎内
の拳螺山を模造せしものあり

三重塔　拳螺山の頂より高二丈一尺基礎ハ九尺四方青
華鋼石を以て造る榮操院の方温敬公の生母能登殿珠洲郡真言宗
吼木山法住寺の霊木吼木桜を以て佛像を彫まゐる法華
経一部を副て塔の龕中に納め奉かゝり経ハ高野版
ふたり佛像ハ防左詳なる
霞池　園の中央にあり縦六十五間横四十間周囲百九十
五間許曲水此に注ぐ又西北に流れ支流ある池中に島
あり蓬莱島と称し松井蓼葱にて新池心に倒る北
堤に巨石の橋を架し之を虹霓橋といふ長一丈六尺五寸
横三尺八寸恰虹霓の如し傍に徽軫焼竈あり水を出づ
こと八尺生形に因りて名づく栗崎の商角崎某の西塘にハ紫

拳螺山
内橋序


霞池
蓮葉島

檀。鐵刀樹等稀なるの珍木あり初め井澤殿のころは小々の池
塘なりしを温敬公漸次に開鑿せられて今の状となれり
内橋亭　霞池より突出する水亭をいふ亭の周圍八間
余四面みな戸牖にして小欄を設く初め園下蓮池馬場より艇
の亭と称する馬見所艇と称する手水所ありて名づけたり
て奥より数歩の清泉を引めり中より此亭を望て橋を架し
て通行し内橋亭と称せり公園となるし後こゝに移植せし
ものなり又亭の構造は小堀遠州の好に出づるなり
虎嘯石　虹霓橋をくりて西偏する五鍼松の樹陰にあり
石質堅硬黝色にして光澤あり高三尺八寸首尾六尺余胴の
圍一丈二尺猛虎の貌をなして真に逼る寛永十一年微

上

虎嘯石

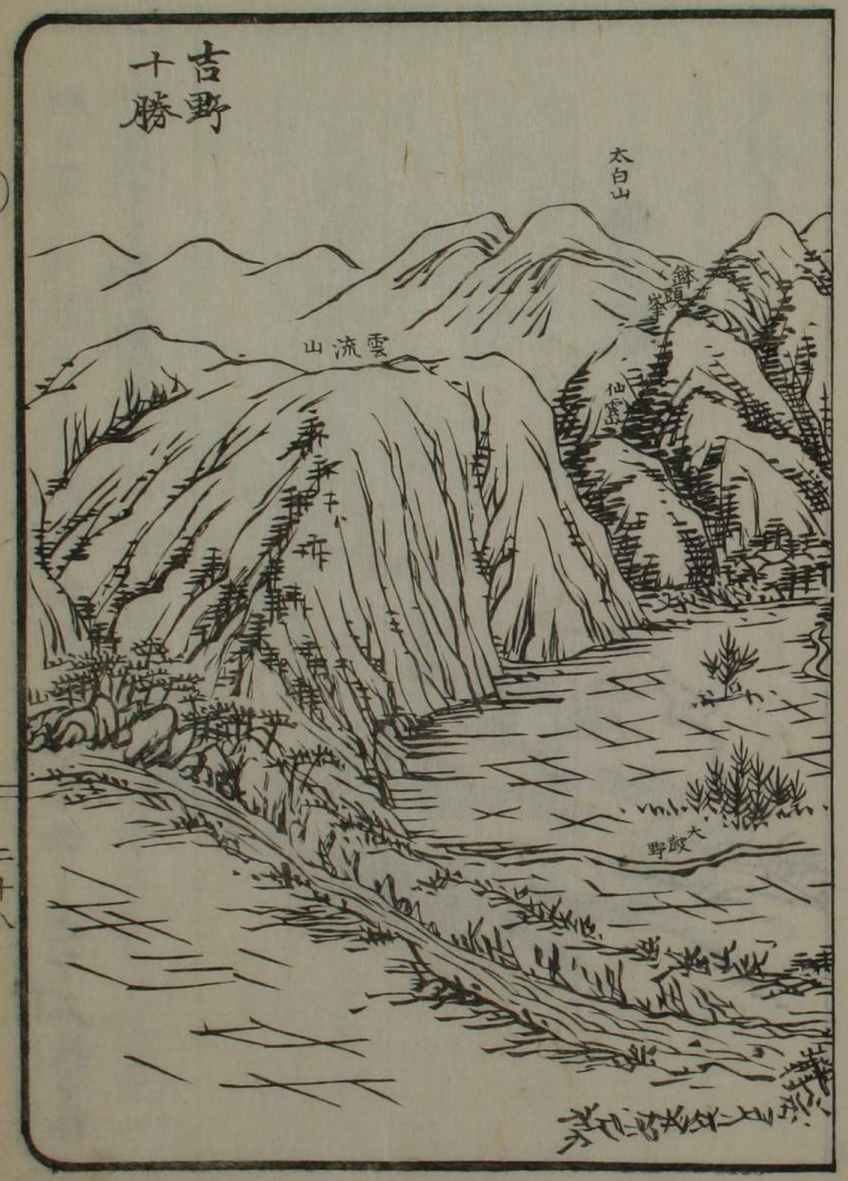
妙公金澤城内築園の時能州より運び来りしものとぞ
高之亭趾　表坂の上にあり古来此邊を総称して蓮池
と称し又菱長十年微妙公の室天徳夫人徳川秀忠の二女入輿の時
勝臣みふ此地を侵せるを以て江戸町とも称せり延寳四年
九月亭を建て江戸町亭と称し後蓮池亭とも称せり程
乗第と称する館あり以上皆寳暦九年火災に罹りて盡焼
失す後金龍公遺跡に亭を建てらるゝ之を高之亭とぶ
維新の後殖産の事業を樹て遺址を表せり程乗
第蓮池亭の事蹟を左に略記す
程乗第の事　慶長年中瑞龍公明の儒者王伯子を聘し
て此第に居らしむ伯子は朱舜水より先輩にして諸侯西儒

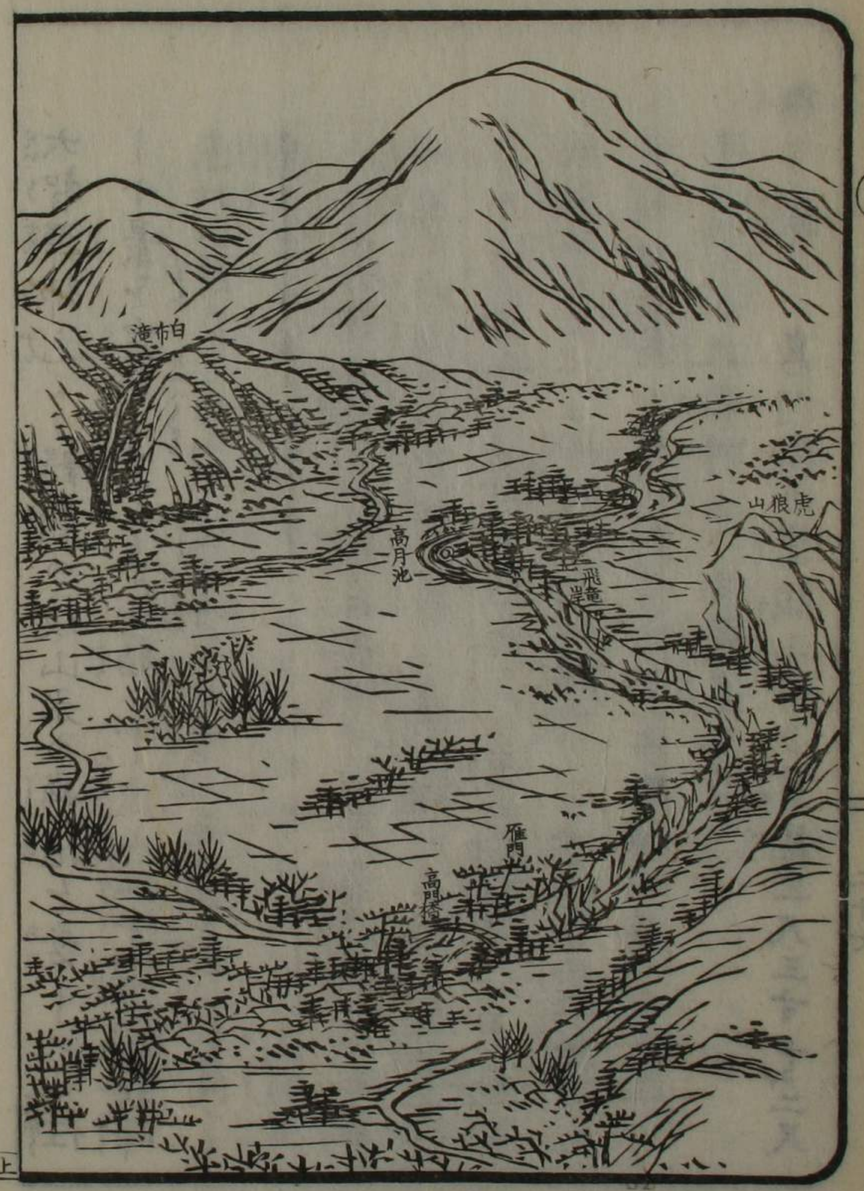
を招きしは之を嚆矢とせり　金沢市南町の中屋氏伯子の筆を元とす
後藤程乗　子昌光二人を招きて此第に寓せしめ多くの
彫刻を命ぜられし故に程乗第の称あり
蓮池亭の事　貞享三年八月十五日松雲公國老を此亭
に集め駿馬幕府より賜を観せしめ且鴻公の放鷹して陪食を
命ぜられ夜に入りて各觀月の詩歌を上る元禄元年公蓮池
馬場に射手の臣十名の射的を験せらる同九年八月諸國凶荒
の時公江戸より歸途國境に入り窮民の状を視察せらるしかの
亭に着輿し當時城中経営の事ありしを以て旅裝を解らべ直に老臣を集めて
救済の方を議し倉廩を開き普く救恤を行はる為に
封内を挙げて菜色を免る又延享四年十月謙德公第八世前田重熙

老臣を此亭ふ系め三日間観楓の宴を催さしまく各詩歌
を上る松雲公の大ふ仁恵を布かせ給ふ遺跡といふを以て温
敬公深く高野亭を愛敬せらるる事あり
高門橋　又黄門橋と称る義詳拳悩山より高之亭此よ
通ぶる間ふ一條の小渓あり之ふ架る飛橋をつふ長一丈八
尺六寸幅三尺三寸厚一尺三寸の華綱石を以て造る此邊
景趣遠高深きてあのづから涼山の趣ひ仕ぶ吉野の言
門橋ふ擬へたるものなり
因ふ云ふ金澤の西南六里三十四町ある石川郡吉野村ハ山水
の勝を以て称せらる相傳ふ菅原道真公加賀権守たりし
時此地の勝景を賞し十景を定めらるると又正中年中

大智禅師元より帰朝の後山水の幽絶を愛し此ふ住
し十景を定むるいとり生ず勝ハ雲流山仙雲峰鉾頭峰
東北ふ連り太白山生後ふ峙ち虎狼山西南手取川を隔て
對立す手取川の岸六七丈渓水奔下す之を飛龍岸
と云ふ此邊屈曲して流れ盤渦す之を高月池と云ふ白
布瀧ハ平岨山の南腹ふ発る高門橋ハ手取川ふ架し絶
美郡多越坂ふ通ぶる古松橋上ふ垂れ涼湍十余丈両岸
絶壁峨々として屏列す之を雁門と云ふ東北ふ月影澤あり
是を吉野十景と称す他月新澤の北ふ小豆澤吉
野の西北ふ太戦野あり亦茶名あり
獅子巌　高門橋の東頭ふあり首尾三尺三寸高二尺

吉野十勝





胴の囲七尺 艶色あり 貌恰狡猊の踞るが如し 之を石橋の源
ハヤく岩窟あり

獅子巖

上

夕顔亭　表坂の北畔よりして蓮池に臨む亭の廣十二坪
余三宮に畫す瓢形の透壁竹木の曲縁皆好事
て古雅あり亭の構造ハ小堀遠州の好に成りて幽趣
あり嘗て簷頭に掲ぐ瓢庵の題額ハ即遠州の筆な
り 瓢ハ今前田家に

李白手水鉢　夕顔亭の縁下にあり高一尺五寸五分徑二尺
八寸　坪野石を以て作る形臼の如し　表面の中心に池を鑿つ
徑一尺五寸に一尺深五寸五分池畔に李太白醉倒乃像
を離出し後藤程乗の作あり　初め耶馬渓の水鉢と稱せり

竹根石　夕顔亭の軒外にあり地より出づる七寸許徑一
尺三寸空洞水を容るべし　竹根の化石なりといへり

夕顔亭圖

松籟滝
海石塔

李白子水鉢

上

蓮池　園の西端より巡り東西五十間南北二十四間周匝百四十間許り曲水の下流みな此より集りて市街より注ぐ池心より小島あり翠松奇石より蔭れ池中碧蓮繁生し時魚潜利も夏日荷香を独きて涼風を納るに宜し又東南岸の絶壁より松杉の間に楓樹を交へ新緑紅葉の時ともに佳観を極む総て園内楓樹毎数種類皆異なりて中より名木霜多あり

松蔭瀧　一名紅葉瀧蓮池の東方断崖より急流高サ二丈余幅七尺許り曲折の一派飛瀑となりて蓮池より直下し奇嵒怪石より觸れ砕けて珠となり煙となり鳴聲衆々人語殆くなるかと疑はし仕観なり

海石塔　蓮池の洲より高一丈三尺形五層にして古雅な

海中の産石あり豊臣秀吉朝鮮の役より獲て舊藩祖宮徳公に賜りしに出あり

日暮橋　夕顔亭の前より蓮池の洲より往来する石橋を

いふ長四丈幅五尺三寸巨石を甃みて架せり橋上殊に観

瀑よ佳し

尾山神社　金城を脊後し上松原町を苔むして社地六千

百六十三坪舊藩祖贈従一位権大納言菅原朝臣利家公を

祭り贈正二位大納言菅原朝臣利長公(第二世)を権中納言従三位利

常公(第三世)を相殿とし上松原町弓二百六十三戸の産土神な

り明治六年加越能三國の士民協同して此社を創建し卯

辰尾山神社を茲に遷し十二年十月小松神社(石川郡浦波村字土清水にあり)

上

(利常公を祀る)を合祀す境内祖霊社は前田家累世の祖霊を祀り同

年五月之を創建し七年十二月縣社に列せらる十一年十一月

聖駕北巡の際幣帛と紅白の羽二重二匹を納め賜へり

社地舊前田氏の別第にして館を金谷と称し温敬公せ風

景を皆楽器に撰び泉水築山を設け神門は石造に

て三階宮十三間四尺八年之を築造せり繪馬堂の忠孝廉

節の額は林焞の書にして墨本より摹せり舊藩明倫堂(文学校の名)

にはあり(林焞は或宋人といひ或明人といひて確あらず卯辰山のことは詳あり)

楽を奏し社地樹林を存して花時殊に盛観あり

石浦神社　城下廣坂通にあり社地九百五十三坪余大山咋神

市媛神　白山比咩神　天照大神　大巳貴神　春日神を合祀す廣

坂通号四千余戸の産土神あり天平年中石浦村今の下本多町に創建し十一面観世音を安置し真言宗慈光院長谷寺と云ひ傍に各神を祀り石浦山王社と称せしを明治二年佛像を除きて社号に別当を改めて神職となし六年三月郷社に列せられ十三年九月今の地に遷せり境内稲荷社宇氣母智神を祀るの側に瀑布あり白練瀧と云ふ高一丈五尺許り幅三尺余窠崖よりなり夏日涼を取るに宜し

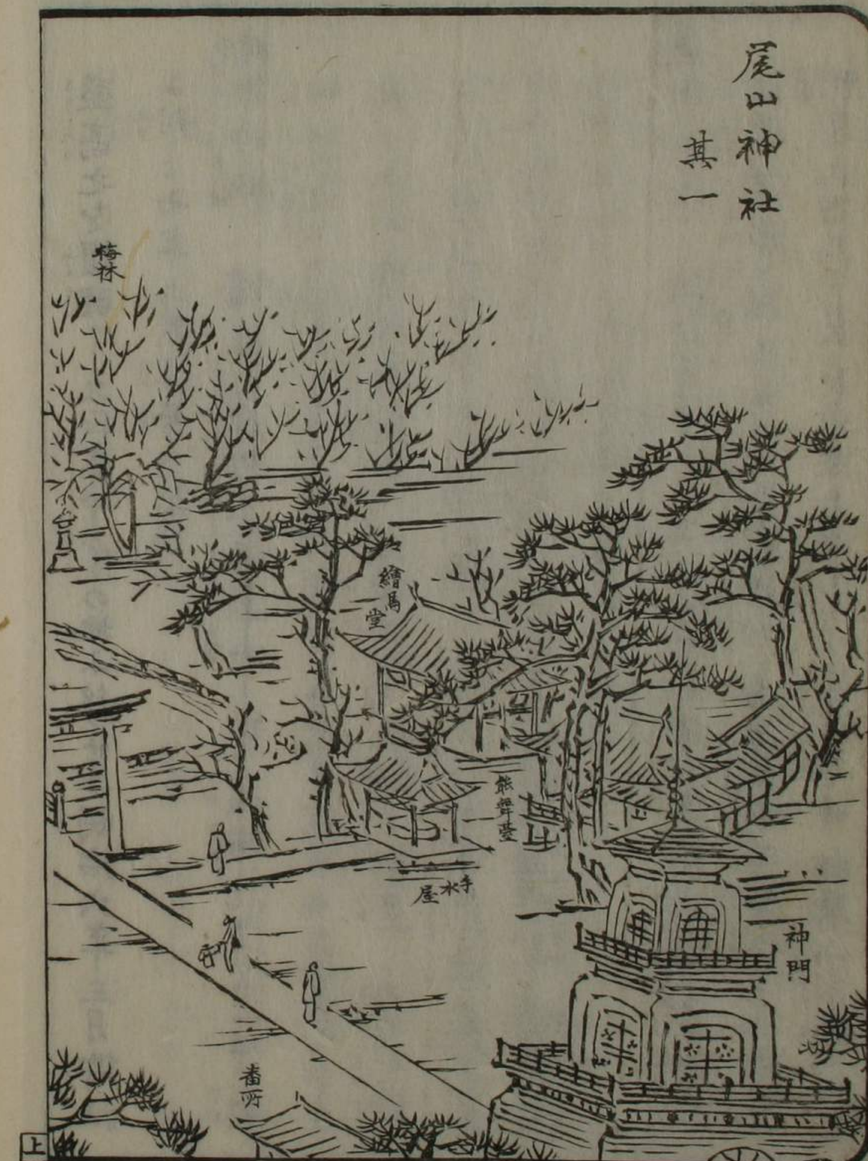
安江神社　城北鍛冶町にあり社地四百十二坪余仲哀天皇應仁天皇神功皇后を祭る鍛冶町号三千九百余戸の産土神あり天慶二年石川郡安江村に創建し河内國誉田八幡を祀り八幡宮と称せしのち衰頽せし後安元二年郷士安江

盛高之を復興し天正年中今の地に移せり明治六年三月郷社に列し七年六月社号を改む

椿原神社　堺東天神町字椿原山にあり社域八百六十一坪菅原道真公の霊を祭る天神町号二千三百余戸の産土神なり永仁五年宮極義祝石川郡田井村今の賢坂辻邊に創建し田井天神と称す後長年中今の地に移せり明治六年三月郷社に列せられ七年六月社号を改む境内に三社あり天照太神経津主神武甕槌命天兒屋根命比咩大神稲倉魂命を祀る本社と同時に建つ　又月夜見命の社あり文化五年建つ

泉野神社　城西野町一丁目にあり社地六百四十六坪余天照太神豐受大神を祀り天兒屋根命布刀玉命を相殿とする野町号六百三十余戸の産土神なり正平年中卯辰山字摩利支

尾山神社 其一



天山ヨ創建シ神明宮ト称シ後字ノ地ヲ置セリ明治六年二月
郷社ヲ定シ七年六月字ノ号ヲ改ム境内稲荷神社大氣津比賣神ヲ祀リ元和八年畧坂町真長寺ヲ創建シ蛭子社転子命事代主命ヲ祭リ文化元年刻建シ今假ヲ稲荷社ヲ合祀す あり又明治七年此地ヲ移せり
老樹ハリ大幹雲ヲ参シ枝葉境内ヲ蓋フ凡一千年ヲ経シト
いふ春秋祭禮他ヨリ殊ニ賑ふ

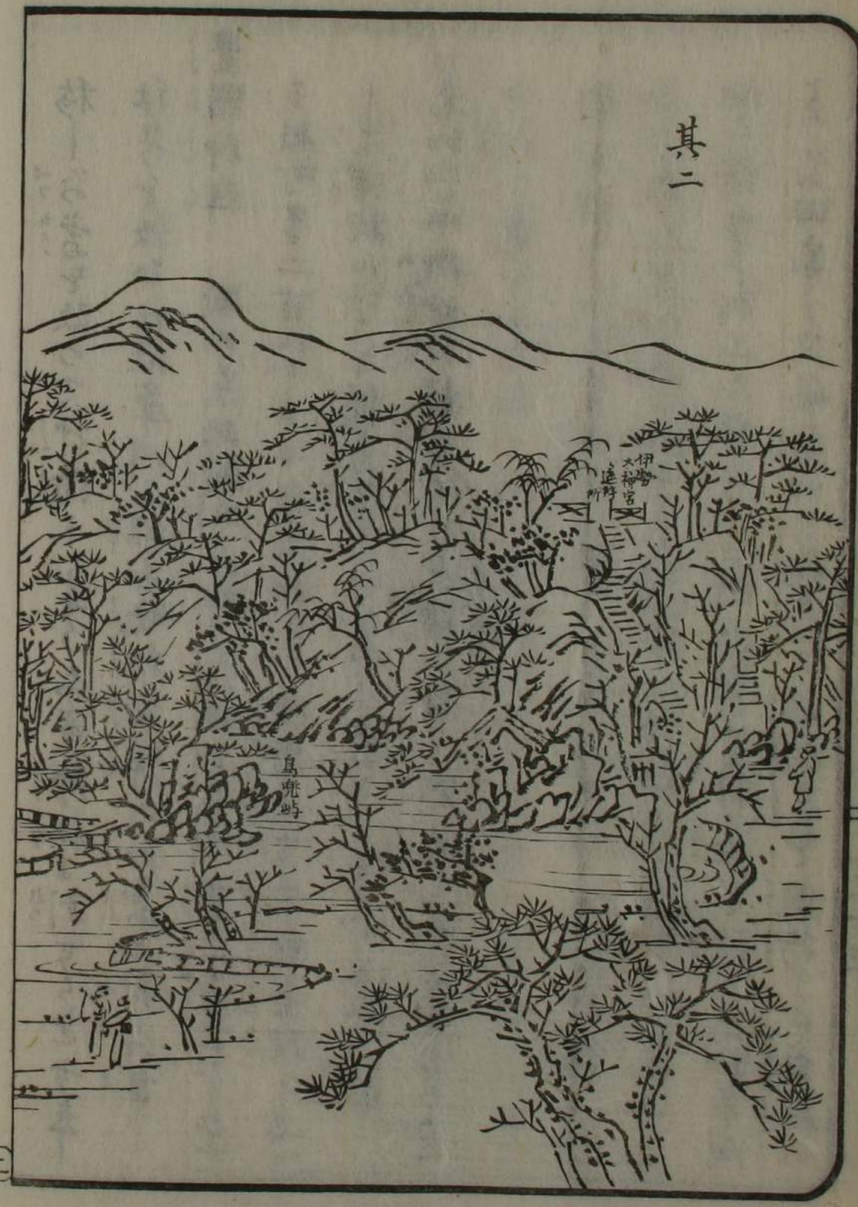
犀川神社　堺西犀川新川除町ヨリ境内二百三十余坪武甕槌命　経津主神　天兒屋根命　比咩大神ヲ祀る新川除町当千
六百余戸の産土神あり天正年中修験派観瀧院開祖高徳
公ヨ往ひ来日神ヲ祭シて尾張愛智郡荒子より越中ヨ来り
守山ヨ創建シ芝長年中石川郡中村ヨ移シ後此地ヨ移せり
正徳三年別當寶久寺ト号シ明治元年十二月犀川春日社ト

上

称シ社号ヲ改メて神祇ヨ列せらる六年郷社ヨ列せらる七年
社号ヲ改む社地犀川ヨ隔ム晩秋對岸の石系を新ニ住シ

豊國神社　城の東北殿町ヨリ社地三百坪豊臣秀吉を祭ふ
る殿町戸二百二十戸の産土神あり往時真言宗観音院と号
シ石浦村ヨリ移して観音像を安置す芝ヶ六年卯辰山ヨ移シ
元和二年微妙公観音町の東頭ヨ移シ別祠を建て秀吉の霊
を祀り是を山王社と称シ住職を以て社掌ふす明治二年
観音像を支坊愛染院ヨ移シ別祠を本社ニ合シ神職ヨ改
む六年六月郷社ヨ列せられ七年六月社号を改め十八年字の
地ヨ遷せり初山王社ヨリ時社前ヨ舞臺を設く元和年間
より氏田家ヨて毎歳四月朔日二日能狂言を執行シて衆庶の

其二



縱覽を許せり參觀人隣國よりも來りて群集して既に
ぶる美をけ〳〵せり

久保市乙劔神社　城の東小下新町古時此邊を久保市村とよよりて社地百
九十四坪素盞嗚尊を祭る下新町弓千百二十八戸の産土神
なり初金澤城郭を築くに當り和辰山より移し生土家傳法
住坊を當たりし治二年に當を神殿に改め九年五月今の
地に復せり十二月郷社に列せらる境内稲荷社宇迦魂命祭る

芸薗元年に創建す

尾崎神社　城北西町四番丁よりて社地八百五十一坪余徳川
家康の靈を祭る西町弓二百十四戸の産土神なり寛永十八
年金澤城中に創建し權現堂と称し天台宗神護寺を置き

てに當と成せり明治二年に當を慶〳〵東照宮と改称し七
年六月今の号に改む九年十月今此地に移し十二月郷社に
列せらる

泉野菅原神社　城乃西南三間道よりて社地四百十一坪余菅
原道真公を祭り素盞嗚尊を合祀し織田信長を相殿とす
泉寺町茅百六戸の産土神なり初め越中新川郡射庄村に創立
し後瑞龍公越中高岡に徙され元和三年微妙公當國泉野今の蛤坂
町成学寺の地に移され新川郡淨禪寺の住職を別當とし後是を玉
泉寺と称し正保三年今の地小橋ぐり明治二年社寺分離し
一時神を卯辰神社に合祀す後更に社号を附して此地に復
せり十三年九月郷社に列せらる

石浦神社

金澤神社　城南出羽町一番丁公園の南頭にあり社地千五百七十五坪菅原道真公を祭る文化二年三月金龍公別邸竹澤殿鎮守の為に創建し竹澤天滿宮と稱す明治五年十月竹澤天神社と改め村社に列し七年六月今の号に改む九年十月郷社に列せらる境内稲荷神社稲倉魂命を祀る八弘化三年の創建なり又本社に祀る鎮火神白蛇神八嘗て真能夫人出雲大社より之を遷さる又境内に金城霊澤池あり亦に祥又放生池の側に奇石あり疣石と称ふ之を摩して疣を接ぜば能く愈ゆるのみ亦夫人乃能州鹿島郡町屋村に坐し給ふ故称さるなり

天德院　金城の東南上鶴間町にあり面積三万四千二百八十五坪曹洞宗長安寺安房国長狭郡吉保村の末派なり元和九年微妙公甘室天德夫人の為に創建し長安寺十一世滴泉を以て寺主とす後松雲公祖廟佛殿等再建の法を明僧高泉に當時小立野献珠寺に錫を留む

令し元禄七年落成す故に當寺の構造は孤て黄蘗様をふしいで明和五年火災に罹りて殆んど焼失せり今往時を存するもの唯山門あるのみ他の伽藍は皆火災後に建物なり

本願寺別院　城北五寶町にあり境内千九百四十四坪余京都真宗本願寺の末寺なり天文十五年本願寺十一世澄如尾山城中に一宇を創し本願寺の寮集所とし天正八年尾山城の時に廢滅せり後高德公の室芳春夫人高畠尤京大夫吉廣の女彌陀佛の像を城中に獲て之を本願寺に奉遷し寺とし後今の地に移し明治九年四月今の号に改む

東本願寺別院　城北安江町より境内三千三百九十七坪余京都真宗東本願寺の末寺あり慶長二年本願寺十二世教如後町金澤城中の西方より所の専光寺を以て末寺とあり寛永八年火災より罹りて此地に移せり明治九年四月今の号に改む

持明院の蓮　城北木新保六番町真言宗持明院の庭池に一種の蓮を生ず一蕚の花三輪五輪最多きは十二輪に及ぶ花色紅を帯び蘂ふくらして實を結ぶ根は尋常の蓮と異なることなく且葩を乾らし薬用とふせり嘗寺は永長年中石川郡安江村今屋小路に創建し傍白髭神を祀る開基詳後中絶せしを以て寛永年中安江村の農民之を再興し万治二年今の地に移せり明治二年神佛混淆ぶつらぶるを以て社寺分離す

持明院池蓮

松月寺の櫻樹　城南野田寺町四丁目曹洞宗松月寺の境内より山桜にて高五間許り根株周囲十間余数幹より枝條長く延て門前の通路を蔭ふ幾百茎を経しかゝれども花時盛観なり相伝ふ冨樫氏當國の守護たりしの時氏自ら桜樹を栽え遊覧の地とせり後市街となり漸く伐除くゝ唯その老樹と残せりと

五百羅漢　城南野田寺町一丁目曹洞宗桂岩寺にあり寛永十九年僧恭嬾の開基にて下傳馬町に創し享保十五年泉野に移り後又ここの地に移り文化六年天鱗にて華厳釋尊十六躰並に五百羅漢の像を安置せんことを願ひ普く勧進して百八軀を造り文化十一年十月事半途にして没す後累代の住職其遺志を継ぎ文政元年全く落成す木像丈ケ約て三尺余皆金彩を施して義羅尼寺邊犀川の西岸にて眺望佳絶なり

金城勝覧圖誌巻之上終